

## 「市民講座等開催状況」に基づく委員からの意見(抜粋)

## 【市民講座等の周知・募集方法など】

地域との連携、協力を得て、公民館に関わりの薄い方々へ情報を発信する。

(保護者の目に触れる)

- 地域や学校との連携
  - ・ 地域行事にて保護者に声をかける。(PTA等への協力)
  - ・ `青少対の会報誌、へ掲載依頼
  - ・ `学校だより、へ掲載依頼
- 公民館と関わりのない世代への周知
- 地域のなかで活動している方々に参加協力を依頼 (特に父親へアプローチ)

## 【講座や事業の内容など】

子育て世代・共働き世代の方々が興味を持つような講座等を企画する。

- 子育てパパママの勉強会
- 母親同士が情報交換できるような講座
- 一週間の作り置き献立メニュー講座
- 男の料理教室

親と子が一緒に参加できる講座や、安心して子どもを預けられる環境をつくる。

- 親子で参加できる手芸講座や料理教室
- 育休を取得している母親が参加できる講座 (保育室・和室等活用)
- 親が講座に参加している間に、子ども向けのビデオ上映会

継続して実施することで、認知度が高まり定着につながる。

- レンジャー体験の継続

学校や地域による公民館施設の活用をすすめる。

- 中学生による部活動の発表の場として公民館を活用

## 【開催日時など】

子育て世代・共働き世代の方々が参加しやすい日程を設定する。

- 土曜日・日曜日など休日開催
- 仕事を終えてから参加できる夜間開催

## 【その他】

高齢化による様々な地域活動の担い手不足の解消につなげる。

- 切れ目のない地域づくりを行うため、30歳代、40歳代の社会参加が地域から期待されている。
  - 協働の担い手不足に対し、公民館として何らかの役にたつ
  - 参加者の多少ではなく、協働の担い手を増やすことが重要
  - 地域の中で地域を支える。(循環型)
  - 保育室講座で育った子どもたちが、小中学生となり居場所として公民館を利用する。
  - さらに成人となって戻ってきて生活することが理想
- タブレットの活用・Wi-Fi環境の整備
  - 公共施設における適切な運用を検討する。
- `SDGs、や `GIGA スクール構想、を理解する。